テレカコレクション

＜ 昭和 編 ＞　　健

今、昭和が一大ブームになっている。とりわけ注目されているのは昭和３０年代だ。自分の中では歴史になる程遠くなっていないのだが年数だけはしっかり経っている。ブームの原点となったのはビッグコミックオリジナルに連載中の「三丁目の夕日・夕焼けの詩」だ。この作品は昭和 49 年(1974)から連載されていて当時はまだ懐かしむという感情は薄く劇画、ストーリー漫画全盛の中では地味な作品だった。自分も当時は 21 歳だったから郷愁に浸るのは年寄りくさいし何か女々しい感じがしてそれほど好きな作品ではなかった。

昭和 30 年代が意識されるようになったのはやはり平成に年号が変わってからだろう。火付け役になったのは平成 6 年(1994)にオープンした「新横浜ラーメン博物館」の成功と言えるだろう。全国を回って選りすぐったラーメン店を一同に集めるのがテーマであったがもう一つのテーマが「昭和」だった。昭和 30 年代の町並みを再現しテーマ・パークとしたのが当たり昭和ブームの先駆けとなった。これを機に全国に「昭和」を売りにしたカレー・ミュージアム、お台場一丁目商店街などのテーマ・パーク、ハイカラ横丁などの駄菓子屋、ができ改めて「三丁目の夕日」にスポットが当たったというところが本当かもしれない。

今回は手持ちのカードの中からレトロ感のあるもの、昭和になじんだロングセラー商品のカードを選んで掲載したがカードの中の商品がモデルチェンジしているものもあるのでレトロ感の無いものもあるかもしれない。

2007 年 11 月に封切りされた「続・ＡＬＷＡＹＺ三丁目の夕日」のキーワードが「あの頃、東京の空は広かった。」だった。

このコピーは自分が子供の頃にもよくあてはまる。我が家は二階建てで回りに高い家が少なかったから夏は多摩川の花火が見えたことがあるし夜は川向こうを走る夜汽車の汽笛が聞こえてくることもあった。

飛行機も今よりは低く飛んでいたせいか爆音で幼児が泣いて困ったものだ。今は許可されないが小型の飛行機が宣伝のビラを巻きに来ることもありそれを拾いに駈けずり回ったこともある。テレビが一般家庭に普及する前だったので広告手段が少なかったせいもある。ぼくらが眼にする広告といえば新聞・雑誌、看板・貼紙、お店のポスターぐらい。銭湯はそういう意味では広告だらけの場所だった。風呂場にはホーローの看板が湯船の上

あたりの壁にぎっしり貼られていた。脱衣場にも貼紙・ポスターが貼られていたが僕が注目していたのが映画館のポスターだ。鴨居の上の壁に５，６件の映画館のポスターが横並びに貼られていたが封切館以外は３本立ての週替わり。貼り替えも頻繁で飽きずによく眺めていた。

デパートは当時の子供にとって憧れの場所であったが晴れた日には遠く川崎のデパートから揚がるアドバルーンがいくつも見えたものだ。
ある日近所の遊び友達がアドバルーンを見ながら行けばデパートまで歩いて行けると言い出した。バスや電車に乗っても大変なのにと思ったが結局、自分は妹

を連れて総勢 5 人で行く事になった。アドバルーンは見えていても真っ直ぐな道があるわけではなく最初は国道に沿って歩き始めたが建物で見えなくなることもあり、見え隠れするアドバルーンを確認しながらようやく川崎駅まで着いたのが昼過ぎ。しかもデパートは駅の反対側。抜け道が分からずようやく迂回路を見つけたときは小躍りしたものだが帰りがまた一騒動。長居しすぎて帰る途中で暗くなり道に迷ってしまった。それぞれ自分の記憶を頼りに我を張り途中で分かれたり心細くなり戻って合流したりしてやっと家の近くの建物が見えてきた時はほっとして力が抜けました。まあ何というかちょっとした「スタンド・バイ・ミー」でしたね。

ところで今回の企画、提案者は自分ということになっている。事実そうなのだが実際はこのコーナーのテーマを「昭和レトロ」にしようとしたものの多肢にわたり文章を考えるのが難しいので思い出の商品について皆さんからコメントを貰って、編集しちまおうという横着を図ろうとしたのが企画に昇格してコラボの形になったという次第。従って今回はカードと文章がリンクしないのは眼をつぶってもらい替わりにコレクションのことについて書くことにする。

元々、収集癖はあったので子供の頃はグリコのおまけにも興味があったし、後に爆発的な人気になったマーブルチョコレートの鉄腕アトム・シール、「のりたま」のエイトマン・シール、グリコのキャラメルの鉄人 28 号のワッペンなど随分集めたがこちらは使うのが前提だったから蒐集にはあたらない。

蒐集意欲を燃やした最初の品は仁丹ガムの球団旗のメダルだ。当たり券がでるとメダル 1 個と交換してくれたが券に印刷された球団としか交換してくれなかったのでとうとう 12 球団揃うことが無かった。本では光文社版の少年探偵団シリーズだ。全部で 23 巻発行されている。1 巻目の「怪人二十面相」が昭和 11 年、最後の 23 巻が昭和 35 年の発行。僕が貸本屋で見つけたのは小学 5 年生(S.38)の時で全部は揃っていなかったし当然書店ではもう売っていなかった。結局、古本屋を回り全巻揃えることができた。一冊 50 円ぐらいだったと思うがそれでも当時の小遣いから考えると大変な出費ではあった。

中学生時代には永島慎二の「漫画家残酷物語」を読み漫画家になりたい夢も持ったが絵の才能が無さ過ぎた。模写は時間をかければそれなりに描けたがそれじゃあ漫画家は無理。それにしても何か描く仕事がしたいなあと思っていた時、眼についたのがレタリングだ。その頃、日美のレタリング通信講座が雑誌・新聞によく掲載されていたので興味を持ち独学で練習も随分したものだ。

国鉄スワローズ（現・ヤクルト）　中日ドラゴンズ　大洋ホエールズ（現・横浜）　阪神タイガース　読売ジャイアンツ　広島カープ

おかげでポスターなど広告デザインにも関心を持つようになり資料として集めだしたのがポスター、案内状、書店のブックカバー、パッケージなどでこれが紙ものコレクションを始めるきっかけとなった。

自分のコレクションでカード類の次に一番多いのがマッチ箱である。

これも永島慎二の「フーテン」に感化され新宿が好きになり作品中のいろいろな喫茶店に行っているうちに街歩きが趣味になり行く先々で入った喫茶店、飲食店のマッチや宣伝用に作られた無料のマッチが自然に集まるようになったからだ。